

前橋空襲の記憶を風化させないために

前橋空襲と復興資料館は、令和 7 年(2025)戦後 80 年という節目の年に、「前橋空襲の記憶を風化させない」というこれまでの市民による熱意により誕生しました。戦争体験者が減少する中、体験者が語るというこれまでのあり方から「非体験者が語る公的資料館」として、「戦争体験の記録」(資料の収集・保管)と「戦争体験の継承」(展示)の機能を持ち、「亡くなった人たちに思いを馳せ、平和を続けるために、常に考える場」を目指してまいります。

今回の新収蔵品展では、資料館開館までに個人の方からご寄贈いただいた資料の一部を展示します。

◆昭和 21 年 3 月 25 日 昭和天皇戦後巡幸写真◆



昭和天皇は、昭和 21 年(1946)2 月から同 29 年(1954)8 月までの間に復興状況の視察と人々の激励のために、全国各地を巡った。群馬県には同 21 年 3 月 25 日に行幸、前橋・高崎・北甘楽郡方面を視察した。この写真はその時に前橋で撮影されたもの。右端に映る礼服を着ているのが、先導役を務めた当時の前橋市長堀康雄で、少年 2 人と話しをしているのが昭和天皇。少年の一人が寄贈者で、左端にはアメリカ兵が付き添っている。撮影場所は、横山町。(現在の千代田町二丁目国道 17 号線の銀座通り入口)

◆昭和 9 年陸軍特別大演習後奉迎時着用シルクハット◆



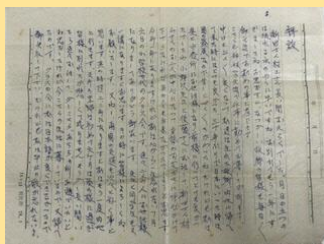
昭和 9 年(1934)の陸軍特別大演習後昭和天皇行幸の際に、群馬県種畜場(現在の群馬県畜産試験場)の説明役を務めた寄贈者の父親が着用していたシルクハット。

◆軍袴◆



旧日本陸軍で使用していた、兵・下士官用の冬または乗馬用の軍服(ズボン)。国防色(カーキ色)で、素材は木綿で中綿が入っている。腰回りがゆったりし、ゲートルを巻くために膝下が細くなっているのが特徴。

◆中国残留日本人孤児からの手紙◆



昭和 19 年(1944)に、一家で満蒙開拓で前橋市から満州へ移住した友人が寄贈者へ宛てた手紙。寄贈者とは小学校の同級生で、日中国交正常化に伴い日本に一時帰国した際、前橋市を訪れクラス会を行った。この手紙は中国へ戻り書かれたもので、クラス会での思い出や帰国の際の見送り、贈り物や先生方への感謝の言葉が綴られている。

新収蔵品展 展示資料

資料名	年代	点数	資料名	年代	点数
昭和 9 年陸軍特別大演習後奉迎時					
補充兵手帳・金銭出納簿・典範令	昭和 12 年(1937)～昭和 20 年(1945)	15	着用シルクハット・写真	昭和 9 年(1934)	3
愛国婦人会 襟	昭和 16 年(1941)頃	1	社会科資料所有綴(戦争回顧録)	昭和 48 年(1973)	1
写真「昭和天皇戦後巡幸」・回顧録	昭和 21 年(1946)	2	中国残留日本人孤児からの手紙	昭和 50 年(1975)	1
ゲートル(巻脚絆)	昭和 16 年(1941)～昭和 20 年(1945)	1	軍袴	昭和 18 年(1943)	1
陶磁器製手榴弾(四式陶製手榴弾)	昭和 19 年(1944)～昭和 20 年(1945)	2	樋田智恵子資料	昭和 11 年(1936)～昭和 45(1970)	12

平和への祈りを込めて 前橋空襲で死没した方の写真提供のお願い

前橋空襲と復興資料館は、慰霊の場としての役割も担っています。展示室の慰霊のコーナーでは、前橋空襲殉難者の名前を掲示しています。また、ご遺族から提供された写真も展示しています。ご家族やご親族などで、前橋空襲で死没した方の写真をお持ちの方は、情報提供をお願いします。1 枚の写真が戦争の記憶を語り継ぐ大切な手がかかりとなります。

団体来館の受付

前橋空襲と復興資料館では、団体来館の受付を行っています。学校行事や地域イベント等でのご利用をお待ちしています。見学をご希望される場合は事前にご連絡をお願いいたします。